

令和6年の果樹におけるカメムシ類の発生経過

本年の果樹におけるカメムシ類の発生経過について、県内の山林（42 地点）での越冬数調査、サクラ（2 地点）での生息密度調査、予察灯調査（1 地点）およびナシ調査圃場（20 圃場）での被害果調査の結果をまとめましたので、参考にしてください。

[カメムシ類の主な発生種]

本県において果樹を加害する主なカメムシ類はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ等である。いずれも成虫で越冬するが、越冬場所は種によって異なる。スギ、ヒノキの果実（球果）等を主要な餌とし、カメムシ類の発生量に対して主要な餌の量が不足すると果樹園に飛来してウメ、ナシ、カキ等の果実を吸汁加害する。

[本年の発生状況]

1. 山林でのチャバネアオカメムシの越冬数調査（2月）

本年2月上旬頃に山林の表層土を含んだ落葉を1地点当たり30リットル採取し、越冬数を調査した結果、越冬成虫数（本年値9.7頭、平年値1.9頭）は平年より多く、越冬地点率（本年値86%、平年値40%）は平年より高かった。

2. サクラでのチャバネアオカメムシの生息密度調査（4月下旬～5月）

餌となるサクラに移動する時期にサクラ果実（10結果枝）の生息密度を調査した結果、生息密度（本年値3.5頭、平年値4.9頭）は過去11年中3番目に高く、平年よりやや高かった。

3. 予察灯での発生量調査（4～10月）

チャバネアオカメムシの越冬成虫は4月第5半旬から誘殺され、平年よりやや早かった。4～7月の総誘殺数（本年値2,401頭、平年値560頭）は平年より多く、8～10月は平年値を下回る誘殺数で推移した（図）。

ツヤアオカメムシの越冬成虫は4月第5半旬から誘殺され、平年より早かった。4～7月の総誘殺数（本年値711頭、平年値48頭）は平年より多く、8～10月はおおむね平年並の誘殺数で推移した（図）。

クサギカメムシの越冬成虫は4月第6半旬から誘殺され、平年より早かった。4～7月の予察灯への総誘殺数（本年値156頭、平年値54頭）は平年よりやや多い～多く、8～10月はおおむね平年値を下回る誘殺数で推移した（データ省略）。

4. ナシ調査圃場での被害果調査（5～9月）

5月上旬に被害が認められ、8月下旬における被害果率（本年値0.5%、平年値0.2%）は平年よりやや高い～高かった。

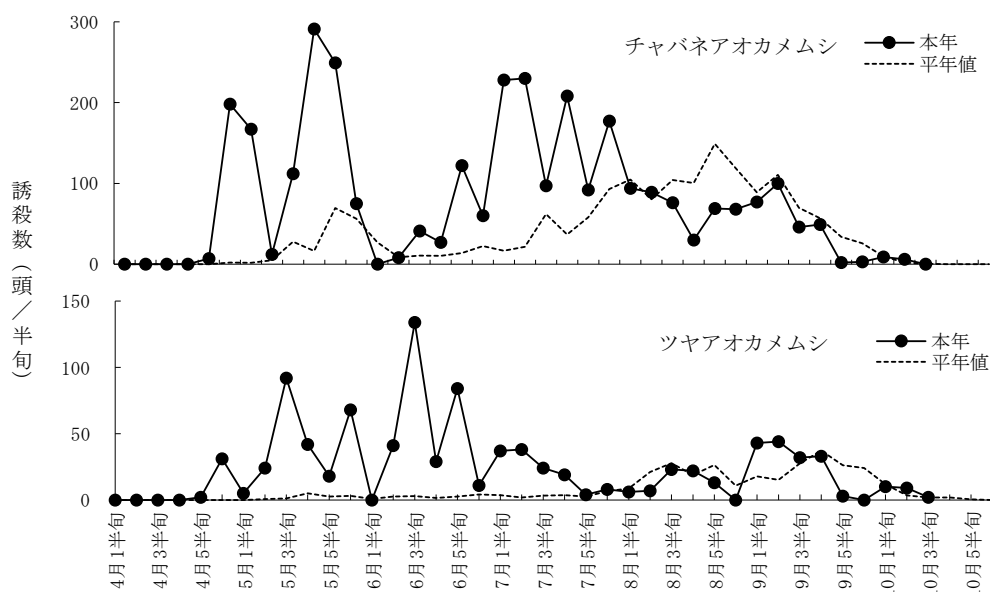


図 チャバネアオカメムシとツヤアオカメムシの予察灯（かすみがうら市）への誘殺数